

2022 年度朝日大学

医科歯科医療センター

研修プログラム

2022年度朝日大学医科歯科医療センター研修プログラム

1. 歯科医師臨床研修プログラムの目的

患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる総合的な臨床能力（知識、技能、態度）を身につけ、さらに患者に信頼される歯科医師としての人格の涵養に努めるとともに、近年の少子・高齢社会に伴う疾病構造の変化や国民の歯科医療に対するニーズの高度・多様化に適切に対応できる、良質で先進的な歯科医療を提供し得る能力を持つ歯科医師となるための生涯研修の第一歩とする。

2. 歯科医師臨床研修の目標（外来診療：211 症例、歯科訪問診療：2 症例）

（1）ねらい

- 1) 歯科医師としてふさわしい態度を身に付け、患者及び家族とのよりよい人間関係を確立する。
- 2) 全人的な視点から得られた医療情報を理解し、それに基づいた総合治療計画を立案する。
- 3) 歯科疾患と障害の予防及び治療における基本的技能を身につける。
- 4) 一般的によく遭遇する疾患の応急処置と頻度の高い歯科治療処置を確実に実施する。
- 5) 歯科診療時の全身的偶発症・事故に適切に対応する。
- 6) 自ら行った処置の経過を観察、評価し、診断と治療に常にフィードバックする態度・習慣を身に付ける。
- 7) 専門的知識や高度先進的歯科医療に目を向け、生涯研修への動機付けをする。
- 8) 歯科医師としての社会的役割を認識し、実践する。

（2）到達目標

到達目標は「歯科医師としての基本的価値観」、「資質・能力」、「基本的診療業務」の3つで構成され、基本的診療業務については、「基本的診療能力等」と「歯科医療に関連する連携と制度の理解等」に分類し、それぞれの構成各項目について具体的な到達目標を示している。なお、基本的診療業務に示した各項目の具体的な個別目標では、“必修項目”と“選択項目”に分けられ、それぞれの必要症例数を提示している。

3. 歯科医師臨床研修プログラムの特徴

- （1）研修初期の4月には、診療参加のための知識、技能、態度（後記の臨床スキル確認項目（①～⑮））を確認し、未修得者は、修得できるまで繰り返し練習させる。また、身だしなみについても必要とあれば改善させる。
- （2）外部有識者によって本学医療センターの臨床研修プログラムの評価を受ける。
- （3）研修医専用技工室や診療用チェアを設置した演習室などが時間外開放され、スキルアップのための練習ができる。
- （4）本学医療センターの歯科医師臨床研修プログラムにおける成績優秀者は、希望により後期研修（1

年間・定員あり)に進むができる。

- (5) 歯科麻酔専門医による歯科診療時の併発症や偶発症に対する基本的な対応法や安全で快適な歯科治療を提供するための精神鎮静法・全身麻酔法が修得できる。
- (6) 歯科医学専門医等を目指す研修歯科医には、臨床経験豊富で高度なスキルを持つ指導歯科医（歯科各分野の専門医・ACE等）の指導を受けることができる。
- (7) 臨床能力の質向上及び臨床研修内容の補完として、各診療科等が開催する症例報告会、治療計画検討会、勉強会などへ参加することができる。
- (8) 向上心があり、臨床スキルの高い研修歯科医であると認められた者には、指導歯科医の担当患者の診療により高度先進医療等を経験できる。
- (9) 本医療センターの在宅・介護施設訪問歯科診療とは別に、研修協力施設において在宅・訪問歯科診療を経験できる。
- (10) 医科病院である本学大学病院（協力型(Ⅱ)臨床研修施設）で病棟研修を数多く体験できる。
- (11) 地域連携の一環として、近隣の幼稚園、小・中学校等で歯科口腔健診を実践できる。
- (12) 良質で先進的、高レベルの明海大学、朝日大学の両歯学部生涯研修センターが実施している生涯研修プログラムの一部（講義）を無料で受講できる。
- (13) AHA の BLS 研修を受講し、修了認定を受けることを必須要件としている。
(感染症拡大のため本講習が中止の場合は、代替の課題を課すこととする。)

4. 募集定員 : 50名

5. 初期研修（4月～6月）期間の研修方法と内容

I. 【4月】

(1) 研修方法・内容

- 1) 研修初期の1ヶ月（4月）は、研修歯科医が指導医指導下で、実際の患者診療を実践する瑕疵として、模型、シミュレーション及び相互実習などで、後記する患者診療前の臨床スキルの準備・確認項目」（15項目）の到達度の評価を行い、未達者には合格基準に到達するまで繰り返し訓練させる。
- 2) 保険医の登録（受付）ができるまでは、各診療科で指導歯科医が担当している患者の見学・診療介助や口腔診断放射線科での予診医の診察補助（口腔内検査・X線撮影・診療介助）などを行う。
- 3) 保険医の登録（受付）が済み、「基本的臨床スキル」の15項目全てが合格基準に到した者から、順次、患者の配当を行う。

(2) 患者診療前の準備・確認項目

- 1) 基本的臨床スキル・15項目（後記）

2) その他の臨床スキル・3項目（後記）

II. 【4月～6月】

(1) 研修方法

臨床スキル確認 15 項目で合格基準に到達していないと評価された項目については、引き続いて合格するまで訓練させる。

(2) 研修内容

- 1) 指導歯科医担当患者の引き継ぎを行う。
- 2) 初診（口腔診断放射線科での予診）及び指導歯科医の持ち患者のX線撮影・読影を行う。
- 3) 口腔診断放射線科で指導歯科医（初診医）診察時の補助（口腔内検査・介助）などを行う。
- 4) 保険医の登録（受付）が完了し、臨床スキル確認項目（①～⑮）全てが修得できた者は、指導医指導下で後記の臨床研修の到達目標を繰り返し実践する。

III. 【6月～】

- (1) 指導歯科医指導下で後記の臨床研修の到達目標を繰り返し実践する。
- (2) 本学大学病院（協力型（II）臨床研修施設）で1週間単位の病棟研修等を複数クール行う。
- (3) 研修プログラムの日程・内容に従って研修を行う。

6. 臨床研修施設の概要

- (1) 管理型臨床研修施設 : 朝日大学医科歯科医療センター＋協力型（II）臨床研修施設
＋研修協力施設
- (2) 臨床研修施設長 : 藤原 周 (センター長・補綴科)
- (3) 研修管理委員長 : 北後 光信 (歯周病科)
- (4) プログラム責任者 : 岡 俊男 (歯科補綴科)
- (5) 副プログラム責任者 : 瀧谷 佳晃 (保存科)
- 岩堀 正俊 (歯科補綴科)
- 安田 順一 (障がい者歯科)
- 後藤 隆志 (歯科麻酔科)
- 村林 学 (矯正歯科)
- 羽田 詩子 (歯科補綴科)
- 岡野 哲 (小児歯科)
- 日下部 修介 (保存科)
- 長谷川 ユカ (口腔インプラント科)
- 金山 圭一 (歯周病科)
- 山岡 真太郎 (歯科口腔外科)
- 西山 航 (口腔診断歯科放射線科)
- 澤田 季子 (歯科補綴科)
- 永山 元彦 (病理診断科)

- 横矢 隆二 (包括支援歯科医療部)
- (6) 事務部門責任者 : 古泉 尚 (事務課長)
- (7) 研修期間 : 2022年4月1日(金)～2023年3月31日(金)

7. 募集及び採用方法

(1) 採用方法

歯科医師臨床研修マッチング協議会のマッチングによる。

(多肢選択試験、後記の提出書類、卒前の学修・学生生活態度・臨床実習時の学修ポートフォリオに加えて指導歯科医による面接等により採用希望順位を決定する。)

(2) 対象者

- 1) 2022年4月1日以降に歯科医師免許を取得する者(取得予定者も含む)
- 2) 歯科医師臨床研修マッチング協議会のマッチングに参加する者
- 3) 選考試験日

第1回 2021年7月31日(土)

第2回 2021年8月22日(日)

*注) 本学卒業生は5年生の臨床実習時に作成した元学修ポートフォリオを持参すること
他大学卒業生は、学部学生時に作成した学修ポートフォリオがあれば持参すること

(3) 選考会場

朝日大学

(4) 提出書類

- 1) 願書(所定の様式を使用のこと)
- 2) 履歴書(所定の様式を使用のこと)
- 3) 卒業(見込)証明書(本学現6年生及び本学既卒者は不要)
- 4) 成績証明書
- 5) 返信用封筒

(定型封筒(長形3号12×23.5cm)の表に返信先を記入し、84円切手を貼付したもの)

(5) 応募期間

2021年6月19日(土)～2021年7月16日(金)(必着)

必ず郵送で応募のこと(持参した場合は受付できません)

問合せ先 〒501-0296 岐阜県瑞穂市穂積1851番地

朝日大学 歯学部事務部 医科歯科医療センター事務課

TEL 058-329-1112(代表) / FAX 058-329-1137

8. 処遇

- (1) 常勤又は非常勤の別 : 常勤
- (2) 基本手当 : 月額140,000円
- (3) 諸手当 : 通勤手当 月額上限15,000円
時間外手当 1,151円/1時間

- (4) 勤務時間 : 月曜～金曜 8:30 ～ 16:30 (休憩 1 時間)
土曜 8:30 ～ 12:30 (休憩 1 時間)
- (5) 休日 : 日祝祭日、年末年始休暇、夏季休暇等
- (6) 有給休暇 : 有 (10 日間) 上記の休日含まず
- (7) 時間外勤務 : 原則として無
- (8) 日・当直 : 無
- (9) 宿舎 : 無
- (10) 施設内の研修歯科医室 : 有
- (11) 公的医療保険 : 日本私立学校振興・共済事業団
- (12) 公的年金保険 : 日本私立学校振興・共済事業団
- (13) 労働者災害補償保険 : 有
- (14) 雇用保険 : 有
- (15) 健康診断 : 有 (朝日大学にて 4 月に実施する)
- (16) 医師賠償責任保険 (歯科医師) : 加入 (個人も強制加入)
- (17) その他研修に関する事項
 - 1) AHA の BLS 研修は必修課題とする。(費用は個人負担)
 - 2) その他の各種の研修活動・学会活動は参加可能であるが、費用は個人負担で、届け出を要する。
 - 3) 初期研修の実施に必要な実習模型及び歯科用器具等は個人で準備する場合があります。

9. 研修プログラムの概要

本学医療センターにおいて、一年間 (4 月～翌年 3 月) の研修を行う。

- (1) 医療センターの 4 診療科 (保存科、歯科補綴科、歯科口腔外科、歯周病科) で各 3 週間ずつの研修に加えて、歯科麻酔科における各自 1 週間ごとの研修を組み込んだローテイト方式による研修を行う。
- (2) 一口腔一単位による総合診療方式を組み合わせた研修 (口腔診断放射線科、小児歯科、障がい者歯科、口腔インプラント科、矯正歯科、総合歯科、包括支援歯科医療部) に、本学大学病院 (協力型 (Ⅱ) 臨床研修施設) での病棟研修及び全身管理を中心とする包括的歯科医療等の基本的技能の修得を指導歯科医 (歯科医学各分野の認定医・専門医・指導医含む) の指導の下で行う。
- (3) 歯科専門分野における日常臨床での診療のコツや様々な症例の提示等、さらには研修歯科医が行う症例検討・症例報告のプレゼンテーションや凝縮ポートフォリオ作成の支援、指導等を行う。
- (4) 技工操作のスキルの向上を目指して、患者の技工物の一部 (個人トレー、暫間被覆冠など) を作製する。
- (5) 11 月からは、本学歯学部大学院への進学あるいは専門医取得の足がかりとして、また、本学独自の後期研修 (2 年次研修) や修練医 (非常勤勤務) を目指す準備として、研修歯科医自身が希望する診療科で 3 月まで研修を行うことができる。

10. 本学医療センターの歯科医師臨床研修の到達目標

歯科医師として身につけるべき基本的価値観及び基本的診療能力を修得するとともにチーム医療・多職種連携に加えて、各ライフステージにおいて必要な歯科保健医療への対応を幅広く理解し、繰り返し実践して確実に習得する。また、近年の多様な歯科医療ニーズに対応するための先進医療の知識を修得し、それに関わる技能を幅広く経験する。

A. 【歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）】

1) 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2) 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3) 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心をもって接する。

4) 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 【資質・能力】

1) 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2) 歯科医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
- ⑤ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

3) 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題点について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。
- ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

4) 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

5) コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

6) チーム医療の実践

医療従事者をはじめ患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
- ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

7) 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その増進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

8) 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点に対応する能力を身につける。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解する。

9) 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌等を含む）を把握する。

C. 【患者診療前の基本的診療能力】

本項目は、患者診療前の基本的診療能力の「1) 臨床スキルの準備・確認項目」、「2) その他の修得項目」に相当する具体的な到達目標を示す。

1) 臨床スキルの準備・確認項目（4月～）

- ① FMCの支台歯形成ができる
- ② メタルインレーの窩洞形成ができる
- ③ CRレジン修復ができる
- ④ RD防湿と歯内療法処置ができる
- ⑤ 口腔内診査（相互）ができる
- ⑥ X線（デンタル、パノラマ）撮影・読影ができる
- ⑦ 口腔ケア（染め出し・ブラッシング指導）ができる
- ⑧ 口腔内写真撮影ができる
- ⑨ P-検査、除石ができる
- ⑩ 口腔内概形印象ができる
- ⑪ 半調節性咬合器を用いて咬合診断ができる
- ⑫ 小児の予防填塞ができる
- ⑬ 口腔粘膜細胞診ができる
- ⑭ 医療安全・感染防止策ができる。
- ⑮ 浸潤麻酔ができる

2) その他の修得項目

- ① 接遇を理解する（接遇セミナー）。

② 開業を理解する（開業セミナー）。

③ BLS プロバイダーコース・AHA G2020 (American Heart Association) を受講して、理解する。

D. 【基本的診療業務】

I. 基本的診療能力等

本項目はB. 【資質・能力】のうち 「2）歯科医療の質と安全の管理」「3）医学知識と問題対応能力」「4）診療技能と患者ケア」「5）コミュニケーション能力」に相当する具体的な到達目標を示す。

(1) 基本的診察・検査・診断・治療計画（5月～）

【一般目標：GIO】

患者の状態に配慮した適切な歯科保健医療を提供するための医療面接、基本的な診察、検査、診断、診療計画の立案に関する知識、技能、態度を身につける。

【到達目標：SB0s】

- ① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。
- ② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。
- ③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。
- ④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。
- ⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。
- ⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。

(2) 基本的臨床技能等

【一般目標：GIO】

日常臨床で高頻度で遭遇する歯科疾患や機能障害を有する患者に対して、適切に対処できるよう基本的な技能を修得する。

【到達目標：SB0s】

- ① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導及び基本的な手技を実践する。
- ② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。
- ③ 基本的な応急処置を実践する。（疼痛、義歯破損、補綴物の脱離、歯・口腔顎顔面の外傷等）
- ④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。
- ⑤ 診療に関する記録や文書を作成する。
- ⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。

(3) 患者管理

【一般目標：GIO】

全身状態に配慮が必要な患者に対して歯科治療を行う際の患者管理に関する知識、技能、態度を修得する。

【到達目標：SB0s】

- ① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。
 - ② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。
 - ③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。
 - ④ 歯科治療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。
 - a 偶発症への対応法
 - i 血管迷走神経反射
 - ii 過換気症候群
 - iii アナフィラキシー
 - b 一次救命処置（BLS）の概念
 - c 二次救命処置（ACLS）の概念
 - ⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。
 - ⑥ 安全で快適な歯科治療を提供するために、精神鎮静法及び全身麻酔法を実践する（歯科麻酔科）。
 - a 歯科麻酔科と他科との連携（講義）
 - b 静脈内鎮静法の周術期管理（相互実習、患者研修）
 - i 術前管理
 - ㊦ 病歴聴取
 - ㊧ インフォームド・コンセント（静脈内鎮静法の説明と同意書の作成）
 - ii 術中管理（相互実習、患者研修）
 - ㊦ モニタ装着（血圧計、パルスオキシメータ）
 - ㊧ 静脈確保
 - ㊨ 薬物投与
 - ㊩ 気道管理
 - iii 術後管理
 - ㊦ 帰宅判定
 - ㊧ 注意事項の説明
 - ㊨ 全身麻酔法の周術期管理（患者研修）
- (4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

【一般目標：GIO】

患者の状態やライフステージに応じた安心・安全な歯科治療を適切に実践する。

【到達目標：SB0s】

- ① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。
- ② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。
- ③ 在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。
- ④ 障がいをもつ患者への対応を実践する。

(5) 経過評価管理

【一般目標：GI0】

自ら行った治療の経過を観察評価するために、診断および治療に対するフィードバックに必要な知識、態度及び技能を習得する。

【到達目標：SB0s】

- ① リコールシステムの重要性を理解する。
- ② 治療の経過を評価する。
- ③ 予後を推測する。

(6) 予防・治療の情報収集

【一般目標：GI0】

高度で先進的な医療を行うために必要な専門的知識や技術を理解する。

【到達目標：SB0s】

- ① 歯科医療の高度な専門的医療内容を学び、理解する。
 - i 黒瀬真由美（口腔ケア、ブラッシング）
 - ii 山田邦晶（歯内療法）
 - iii 申 基喆（歯周病）
 - iv 南 清和（補綴、歯周病など）
 - v 上濱 正（補綴）
 - vi 青井 良太（歯周病、補綴など）
 - vii 武藤 晋也（補綴など）
 - viii 神原 新（デンタルCT）

- ② 専門的な医療を体験する。

II. 歯科医療に関する連携と制度の理解

本項目はB.【資質・能力】のうち「6）チーム医療の実践」「7）社会における歯科医療の実践」に相当する具体的な到達目標を示す。

(1) 歯科専門職の連携

【一般目標：GI0】

歯科保健医療を行うにあたって、歯科衛生士、歯科技工士等の歯科専門職の役割を理解し、連携を図る。

【到達目標：SB0s】

- ① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。
- ② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。
- ③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。

(2) 多職種連携、地域医療

【一般目標：GI0】

地域包括ケアシステムにおける多職種連携による質の高い歯科保健医療を提供するための歯科医の役割に関する知識・技能・態度を修得する。

【到達目標：SB0s】

- ① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。
- ② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。
- ③ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。
- ④ 歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。
- ⑤ 入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。

(3) 地域保健

【一般目標：GI0】

歯科医師の地域公衆衛生に果たす役割を理解し、地域歯科保健活動に参画するための知識、技能、態度を修得する。

【到達目標：SB0s】

- ① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。
- ② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。
- ③ 保健所等における地域歯科保健活動を経験する。
- ④ 歯科健診を経験し、地域住民に対する健康教育を経験する。

(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

【一般目標：GI0】

各種の医療法・歯科医師法及び関連する医療保険制度の目的やシステムを理解し、適切な歯科保険診療を実践する。

【到達目標：SB0s】

- ① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。
- ② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。（360度評価の実施）
- ③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

Ⅲ. 多様な歯科医療ニーズへの対応

【一般目標：GI0】

患者の多様な歯科医療ニーズに対応できる診療能力の修得と最新の医療技術(歯科材料の特性を含む)を理解し、修得する。

【到達目標：SB0s】

- (1) 歯科保険収載技術を理解し、習得する
 - ① 舌接触補助床の作成、舌圧検査(安田)
 - ② 下顎運動測定と咀嚼能力測定(宇野)
 - ③ CAD/CAMによる冠作製(澤田)
 - ④ ファイバーポストを用いた支台築造(澤田)
 - ⑤ 間接法によるシリコン系軟質裏装材による下顎総義歯の裏装(岩堀)
- (2) 近年の歯科医療の考え方について理解する
 - ① 顎関節症の保存的療法(倉知)
 - ② 健康寿命からの10年を支える歯内療法(吉田)
 - ③ MIに基づくCR修復(平田)
 - ④ バージョンアップ歯周治療(辰巳)
 - ⑤ 地域包括医療(安田)
- (3) 歯科医療技術のスキルアップ講義・実習(選択性)
 - ① デンタルマイクロスコープによる歯内療法(瀧谷・長谷川)
 - ② 歯周外科治療・縫合実習(辰巳)
 - ③ 歯のホワイトニング実践(羽田)
 - ④ スポーツ歯科とマウスガード作成(都尾)
 - ⑤ 口腔機能及び摂食嚥下機能の管理(谷口)
- (4) 最新の歯科材料について理解する。
 - ① 印象材
 - ② セメント

- ③ ボンディング材
- ④ Ni-Ti チタンファイル
- ⑤ コンポジットレジン
- ⑥ 予防用品

11. 研修の評価法（各項目で7割以上の取得を合格基準とする）

（1）学修ポートフォリオ

1年間の研修期間を3期に分けて、各期で提出させた凝縮ポートフォリオをルーブリックにより評価する。

（2）毎日の記録、体験シート、一週間の振り返り（臨床研修歯科医手帳など）により評価する。

（3）臨床スキルおよびレポートをルーブリックにより評価する（研修プログラム評価帳）。

（4）コ・デンタルスタッフ、同僚・先輩歯科医などによる360度(多面)評価を行う。

（5）症例報告・症例検討のプレゼンテーション及びスモールグループディスカッション(SGD)による課題解決（レポート）をルーブリックにより評価する。

12. 研修協力施設

（1）岐阜市保健所に属する各保健センターにて、フッ化物塗布及び10ヶ月児、1歳6ヶ月児、3歳児の乳幼児健診を体験する。

1）薬物塗布・乳幼児健診

岐阜中・南・北保健センター

（2）訪問歯科診療

近隣の開業歯科医院の中で訪問診療を数多く実施している施設で体験する。

1）訪問歯科診療を実施する施設

- i 上松歯科医院
- ii 赤坂歯科医院

13. 協力型（Ⅱ）臨床研修施設

（1）朝日大学病院(病棟研修)

- 1）入院患者の口腔ケア、口腔リハビリテーション、周術期口腔機能管理
- 2）歯科で入院中の患者の歯科治療（介助・診療参加）
- 3）歯科以外で入院中の患者の歯科治療（介助・診療参加）
- 4）多職種連携（医師・看護師・薬剤師・放射線技師・臨床検査技師等）

研修施設一覧

【管理型臨床研修施設】

研修施設番号	施設名	センター長
050020	朝日大学医科歯科医療センター	藤原 周

【協力型（Ⅱ）臨床研修施設】

研修施設番号	施設名	研修実施責任者
050021	朝日大学病院	村松 泰徳

【研修協力施設】

研修施設番号	施設名	研修実施責任者
055008	岐阜市保健所	野村 隆之
170081	上松歯科医院	上松 謙介
170083	赤坂歯科医院	山口 正義